

ふるさと吉富町

私たちが暮らす「吉富町」には、現在に至るまでの数々の歴史があります。そして、そこには現在の快適な生活のベースがあります。そんなふるさと吉富町について、いろいろな視点からご紹介していきます。



どんど焼き (広津上)



残り火でのもち焼き (今吉)



やぐら (広津上)

第9回

どんど焼き

どんど焼きとは

どんど焼きは、日本全国に伝わる無病息災を祈る火祭りです。小正月（こしょうがつ＝1月15日）に行われています。長い竹や木、藁（わら）、茅（かや）などを一か所に積み上げてやぐらを組み、家々から持ち寄った松飾り、しめ縄などの正月飾りや書き初めなどを飾り付け、神事を行った後に火をつけて燃やします。残り火で餅を焼いて食べたりもします。

古来、火は尊く、祓いの力があると考えられてきました。お正月に天から下ってきた歳神様は、どんど焼きの煙に乗って天に戻っていくと言います。そのため、どんど焼きの神聖な火にあたり、焼いた餅を食べると一年間健康で過ごせると伝えられているのです。

どんど焼きの語源と起源

どんど焼きの語源は、火が燃えるのを「尊（とうと）や尊（とうと）」とはやし立てたその囃し言葉がなまったもの、火がどんどん燃える様子からなど諸説あるようです。

平安時代の小正月に、宮中で青竹を束ねて立て、^{まき}「毬杖」を三本結び、その上に扇子や短冊などを添え、^{おんみょうし}陰陽師が謡いはやしながらかれを焼く「さぎちよう（左義長・三毬杖）」という行事があり、それが民間に伝わりどんど焼きとなったと言われています。現在でもどんど焼きを左義長と呼ぶこともあるそうです。

吉富町のどんど焼き

町内では近年、一度は途絶えた伝統行事を見直そうと有志の方々のご尽力で、どんど焼きが復活し、実施する地区が増えています。主に1月中旬に行われています。



もちつき (土屋)